

## 受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

### 郷土資料館の資料整理と オーラルヒストリーによる資料収集の取り組み

田上 繁

本年度の三宅島調査は、9月23日から26日までの3泊4日（フェリー1泊）の日程で行った。この調査は2015年度より田上経済ゼミナールのゼミ調査として行っていたが、本年度より三宅村の委託業務となり、常民研の受託研究として調査、成果物の刊行を進めることになった。委託事業は、「三宅村郷土資料公開・保存事業 業務委託」を研究題目とする。今回の調査には、所員の田上繁と職員の越智信也、田上が担当する学芸員課程「博物館実習Ⅰ」の履修者12名とTA1名、大学院歴史民俗資料学研究科の「歴史史料整理補修実習」の履修者6名とTA1名、さらに、同研究科の参加希望者の修了生1名を含む8名など総勢30名が参加した。

調査内容は、これまで田上経済ゼミナールⅡ（学部3年生）を中心にして実施してきた三宅村郷土資料館の収蔵資料の調査、整理作業と、島内の古老からうかがうライフヒストリーの聞き書きが

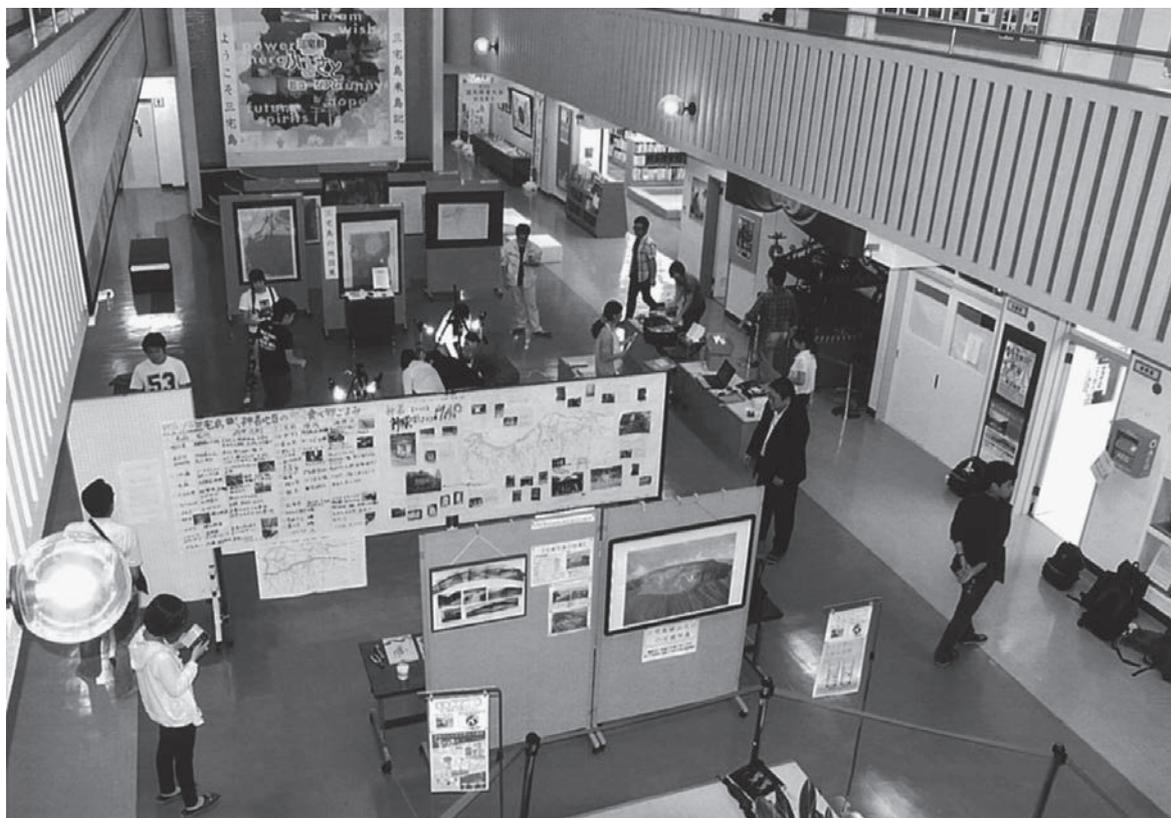


写真1 三宅島郷土資料館での作業風景（2016年9月）

主体であった。

収蔵資料の調査は今回で一応終了し、今後はデータの整理と処理作業にあたることになる。また、聞き書き調査も、昨年度に引き続き新たに旧自治会長、テングサ漁の海女さんたち、農業関係者など10名余の古老から貴重な話をうかがった。とくに、6名の海女さんからの聞き書きでは、いずれも三重県鳥羽からの移住者であることから、それぞれの出身地域別に分かれてお話を聞いた。その内訳は、旧相<sup>おおさつ</sup>差村3名、旧石<sup>いじか</sup>鏡村2名、旧国崎村1名となる。これら聞き書きのすべてについては、本年度中に音声のテープ起こしを行い、来年度刊行に向けて編集の作業に入る予定である。

本年度の主な事業内容は上記の通りであるが、2015年度に実施した聞き書きに関して不明な部分があったため、越智が2016年10月21日・22日に三宅島へ赴き、当時お話をしていた話者2名から教育委員会の方々も交えて、本年度刊行予定の原稿をもとに確認作業を行った。その2015年度の聞き書き調査の結果は、2017年3月に『三宅島のオーラルヒストリー』と題する冊子にまとめて公刊した。いずれも話者が語ってくれたことを基礎とするもので、「無常講」「足入れ婚」「流刑人」「喧嘩神輿」「海女」の話など、三宅島固有の大変興味深い内容となっている。

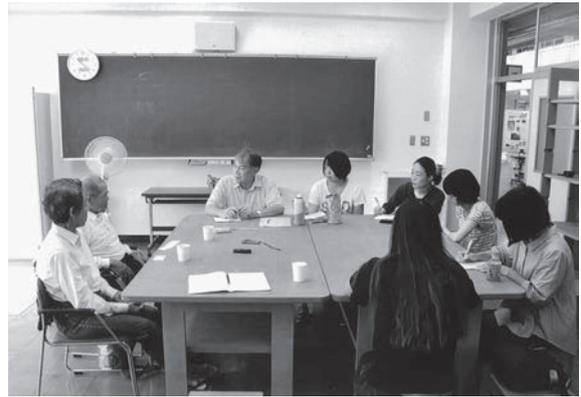


写真2 島民の方からの聞き書き調査 (2016年9月)



写真3 島内巡検 (2016年9月)



写真4 神着地区の溶岩流で埋まった神社の鳥居と社殿 (2016年9月)



写真5 島内巡検の集合写真 (2016年9月)



写真6 聞き書きの原稿の確認 (2016年10月)